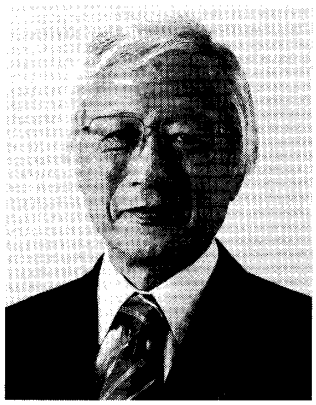
会長就任の挨拶

価値創造に向けて



㈱NTTデータ　相談役　　青木　利晴

このたび本学会の会長としてご推挙いただきました．重責に身の引き締まる思いをしております．皆様，ご支援のほどよろしくお願い申し上げます．

さて私は大学を出てすぐNTTの研究所に入りましたが，はじめの20年間はネットワークの研究や開発に，後の20余年は技術やサービスの戦略立案や企業の経営に携わってまいりました．

研究者として駆け出しの60年代は，オペレーションズ・リサーチが新しい工学として脚光を浴びていました．OR学会誌の到着が待ち遠しく，毎号興味をもって読んだものです．当時非線形の最適化問題を解くために，ダイナミック・プログラミングを使うことを思いつきました．ただ，最新の大型コンピュータといえどもメモリ容量が現在のパソコンの数桁も少ない状況でしたので，計算途中の結果をカードに打ち出し，コンピュータの使用時間を割り当てられるたびに，大量のカードを台車に積んで，コンピュータ室との間を何度も行き来したことを覚えています．

当時とは研究室も企業の事務所も外見は変わっておりません．しかし大きく変わったものがあります．それは携帯とパソコンとインターネットの普及，つまりはやりのIT化です．すべての情報がディジタル化され，ネットワークによって繋がり，どこからでもアクセスできるようになりました．これにより，研究開発は言うに及ばず，ビジネスのやり方も大いに変わってきました．企業が互いにネットワーク化することにより，産業構造そのものが変わってきました．M＆Aやアウトソーシングが盛んになったり，新規の事業が生まれやすくなりました．

個人についても，携帯電話やパソコン・インターネットがもはや環境と言えるほど普及することにより，個人の行動原理が変わり，生活様式が多様化してきました．例えばネットを通じて，自分が本当に欲しいものを探し出す，個人主導でコミュニティ活動をするなどです．加えて安心・安全を重視するなど，個人の価値観が従来と比べて大きく変わってきたといえるでしょう．

この変化の中で企業経営として考えなければならないことは，変化の潮流，とくに個人・消費者の価値観の変化を洞察し，これに一歩先んじて企業のビジネス戦略を立て，ビジネスモデルを変えていくことであると思っています．

最新のITを駆使した経営手法や経営システムなど，究極的には企業の経営の効率化に貢献する新しい研究や応用分野がたくさん生まれています．一方で産業界では，もはやITそのものが独立した産業というよりも，ITと金融，ITと流通，ITと製造，ITとコンテンツなど，ITが他の産業と結びついて，新しい産業を作り出す時代となってきています．

ORも同じではないでしょうか．とくに産業界の立場からあらためてORを見ますと，現在のビジネスの効率化や最適化のみならず，価値創造つまり新しいビジネスや商品の創造を促す手段としても，ORが強く期待されていると思います．

社会からのORに対する期待に応えるべく，本学会の一層の発展のため誠心努力する決意です．皆様，どうぞよろしくお願いいたします．